

科目名		授業形態	担当教員名	
言語発達障害 I (検査学)		講義・演習	西田 和子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (1 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
コミュニケーションや言語発達に問題を示す子どもへの働きかけの指針を得る上で、標準化された検査を用いることは必須である。子どものコミュニケーションや言語発達のみならず、そのベースとなる認知・視知覚・運動等を評価する検査について認識する。子どもの特性を捉える力を修得する。				
授業の到達目標				
各検査の目的や疑義を捉えることができる。また実施上の留意点を踏まえ、検査を取り解釈することができるようになる。子どもの特徴を捉える検査バッテリーの組み方を考え、検査から子どもの特徴を捉え能力を身に付ける。				
授業計画				
回	内容			
1	〈S-S法〉：説明・演習			
2	〈S-S法〉：演習			
3	〈S-S法〉：演習			
4	〈S-S法〉：まとめ			
5	K-ABC II 教育心理アセスメントバッテリー : 説明・演習			
6	K-ABC II 教育心理アセスメントバッテリー : 演習			
7	K-ABC II 教育心理アセスメントバッテリー : 演習			
8	K-ABC II 教育心理アセスメントバッテリー : まとめ			
9	田中ビネーV			
10	DN-CAS			
11	DN-CAS			
12	視知覚の検査			
13	標準 読み書きスクリーニング検査		愛媛—森田式読み書き検査	
14	LCスケール			
15	LCSA			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	①各検査の意義や目的を捉え、実施や評価の方法を理解できることを評価基準とする。 ②事例に応じた検査の選択や組み合わせを考えることを評価基準とする。		
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版	玉井ふみ・深浦順一		医学書院	
言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版	石井宏代・石坂郁代編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				